

「未来の教育を支える優れた教員の育成を目指す養成・研修の一体的推進」  
 - 教員養成大学と地元教員研修機関との協働による新しい人材育成システムの構築を目指して -

調査の概要

- ◆課題認識
  - ・教員養成・育成のシステムが一貫化していない。
  - ・多忙な現場で、実現可能な研修がなされない。
- ◆調査研究の目的
  - ・教員に求められる資質や能力を明らかにする。
  - ・教員養成・育成に必要な研修内容を探る。
- ◆調査研究の方法
  - ・研修後のアンケート調査、現場での聞き取り
- ◆調査対象（教員：宮城県内）
  - ・初任者 351名
  - ・教職5年経験者 356名
  - ・教職10年経験者 224名
- ◆調査対象（学生：宮教大）
  - ・4学年学生 316名
- ◆調査対象（校長：仙台市内）
  - ・小中学校校長 11校

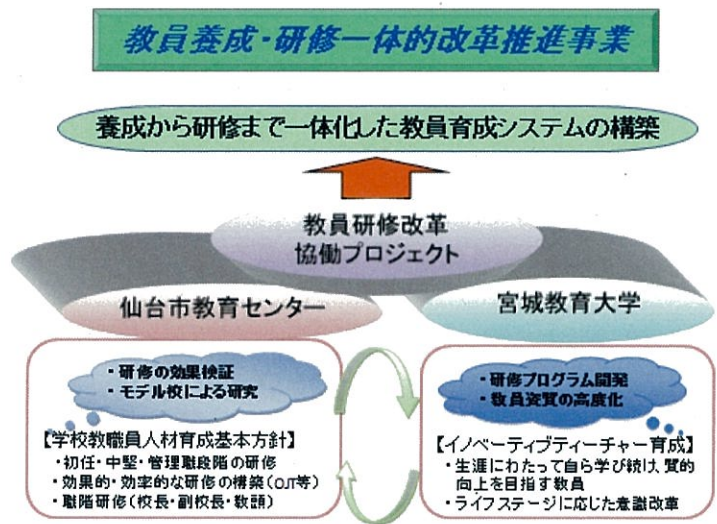
取組のポイント・成果

◆調査のまとめ

- ①現職教員の実態
  - ・初任者は自信をもって赴任している
  - ・学校現場で困難に遭遇し自信を失う
  - ・充実、発展期の教員の力量不足
  - ・研鑽を深める時間的余裕がない
- ②教員に求められる資質・能力
  - ・コミュニケーションスキル（全年代）
  - ・特別支援教育への知見と対応力
  - ・学校を導くミドルリーダーへの期待
  - ・子供、保護者に信頼される人間力
- ③改善への提案
  - ・学生のインターンシップを導入する
  - ・初任者の自己管理能力の養成を強化
  - ・研修の効率化、有効化に向けた協働

◆成果

- ・採用前と各教職経験段階での実態が見えたこと、学生から10年経験者まで経験年数による経年変化の傾向を把握できたことが大きな成果である。
- ・今回調査した結果は、養成段階から育成・向上期の研修のあり方の貴重な指標となる。



今後の課題

◆実現性の高い研修方法の開発

- ・多忙化が進む現状の中で、効果的な研修を具現化する成功事例の蓄積
- ・学校現場、教員養成大学、教員研修機関（研修センター）が協働して構築する研修方法
- ・教育現場が抱える多様な課題の根本的な解決につなげる教員養成、研修システムの構築